



# モエワ★カメイ

NO.

# 63

●モエワ・カメイとはアフリカで「エノケムシ」のことです。

MAR 2002



あさひやまどうぶつえんニュース  
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その24

ライオンだってあとずさり

アフリカタテガミ

ヤマアラシ 2・3

特集

つまちゃんのお引越し!!

4・5

飼育研究レポート

6

動物園事情

VETNEWS

7

氷彫刻コンクール

飼育動物数

編集後記

8

アフリカタテガミヤマアラシ

*Hystrix cristata*





ほくは、  
**動物大使**

その24 ライオンだってあとずさり アフリカタテガミヤマアラシ

**アフリカタテガミヤマアラシ**

*Hystrix cristata*

アフリカの半砂漠地帯に生息。植物食で、根、球根、果実などを食べる。

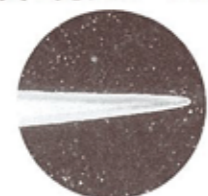
夜行性で、昼間は数頭で地中の穴や、岩の間で休息し、夜になると単独で行動する。

特徴は長く堅い針状の体毛。これを逆立てれば、さすがのライオンも手出しはできない。

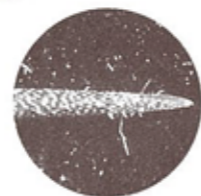
それでも近寄るものには、後ろ向きに突進し体当たりする。針による傷口が悪化すれば、それが致命傷になることもある。

**毛**

針状に変化した体毛。特に背中  
の毛はプラスチックのように堅い。長  
いものは50cmにもなる。皮フに浅く  
生えているので簡単に抜ける。ヤマ  
アラシ科の毛の先端は鋭くとがり、  
アメリカヤマアラシ科の方は細かい  
“かえし”がついている。図鑑などで  
は、あいまいな表現が多いが、下の写  
真を見れば一目瞭然!!



タテガミヤマアラシ



カナダヤマアラシ

**尾**

おこるとふるわせて  
ガラガラと音を出す。



**後足**

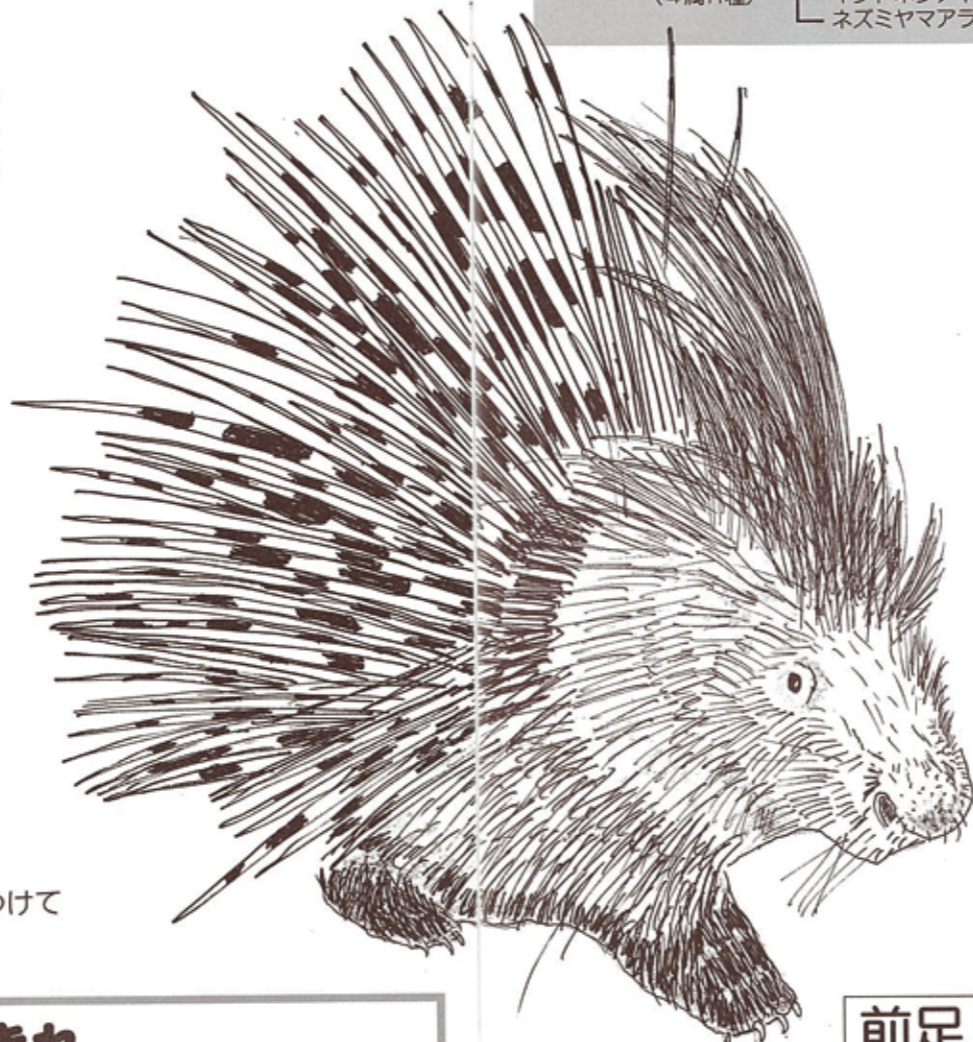
おこると地面を踏みつけて  
パンパンと音を出す。

**28年ぶりのボロきれ**

生まれたばかりのヤマアラシの赤ちゃんは、目がぱっちり開き、体毛も生えそろう、とても発達した状態(早成性)で生まれます。背中  
の針も生えています。初めは柔らかくフニャフニャですが、生後数時間で堅くなります。

28年前、当園で赤ちゃんが生まれたときの話です。担当者が寝室のすみにあった変なボロきれを見つけ、拾って捨てようとしたところ、なんとそれが赤ちゃんだったそうです。

そして、2001年9月29日、28年ぶりに赤ちゃんが生まれました。春にはみなさんにお見せできます。まだちっちゃいけど、いっちょまえになったチビヤマアラシを見に来て下さい。「もうボロきれなんて言わせないもん!!」



**体**

体長70cm、  
体重27kgぐらい。

**たてがみ**

細長いたてがみが  
頭頂部から肩まで  
生えている。  
おこると逆立つ。

**感覚**

嗅覚が鋭い。

**歯**

一生伸び続ける門歯は  
「げっ歯目」の特徴。  
のみのように鋭い。

**前足**

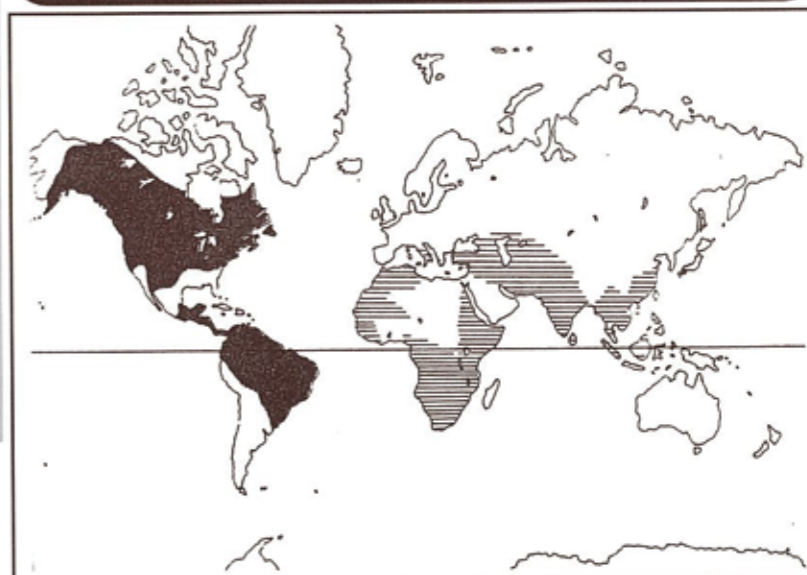
前足で食べ物を地面に  
押さえて食べる。  
穴ほりも得意。

**ヤマアラシって何の仲間?**

こう見えても彼らは「げっ歯目」そう、ネズミの仲間なのです。ヤマアラシは全く系統の違う2つのグループに分けられます。1つは、南・北アメリカに分布するアメリカヤマアラシ科、もう1つは、アフリカ・アジアに分布するヤマアラシ科です。どちらも「ヤマアラシ」とつきますが、針の長さや先端の形・尾などに大きな違いがあり、また、アメリカヤマアラシ科は「樹上生活者」ヤマアラシ科は「地上生活者」と生活環境も全く違うのです。

|                       |                |    |
|-----------------------|----------------|----|
| アメリカヤマアラシ科<br>(5属11種) | — ホソヤマアラシ属     | 1種 |
|                       | — オマキヤマアラシ属    | 2種 |
|                       | — アマゾンヤマアラシ属   | 1種 |
|                       | — カナダヤマアラシ属    | 1種 |
|                       | — キノボリヤマアラシ属   | 6種 |
| ヤマアラシ科<br>(4属11種)     | — フサヤマアラシ属     | 2種 |
|                       | — ヤマアラシ属       | 5種 |
|                       | — インドネシアヤマアラシ属 | 3種 |
|                       | — ネズミヤマアラシ属    | 1種 |

**ヤマアラシの分布**



■ アメリカヤマアラシ  
■ ヤマアラシ科の分布図

**アメリカヤマアラシ科**

カナダヤマアラシ 生息地 アラスカ・カナダ・アメリカ



木登りが上手。昔、旭山で飼育していた。

**ヤマアラシ科**

アフリカタテガミヤマアラシ 生息地 アフリカ



長い針を逆立てて敵に突進。  
アメリカヤマアラシより攻撃性が強い。

**旭ヤマアラシファミリー**



父親 00' 11.16  
鹿児島県  
平川動物公園より  
入園。

母親 00' 6.6  
福岡県  
到津遊園より入園。



オス(たぶん)  
93' 4.9から  
旭山で飼育。

仔  
01' 9.29生まれ。  
すっかり大きくなりました。

**動物たちの護身術**

ヤマアラシのように、体に針やトゲをまとい、身を守る動物がほかにもいますね。ハリネズミ・ハリモグラなどもヤマアラシと同じく体毛をトゲ状に変化させた動物です。では、ヤマアラシと同じ仲間か?というところではありません。ハリネズミは「食虫目」という仲間、体を丸めて背中  
のトゲをたてまると栗のようになり身を守ります。またハリモグラは「単孔目」という仲間、敵におそわれそうになると、やわらかいお腹側をすばやく地面にうめて、トゲのある背中だけ地面に出し防御します。分類的にはそれぞれ違いますが、その体は、みな同じ目的で進化してきたのです。そういえば海の中にはハリセンボンなんてのもいますね。ほかにも、いろいろな方法や体で必死に身を守り、生きぬいている動物がたくさんいます。調べてみるとおもしろいですよ。例えばアルマジロとか……。 (写真/主婦の友社動物園の動物より)



ハリネズミ



ハリモグラ

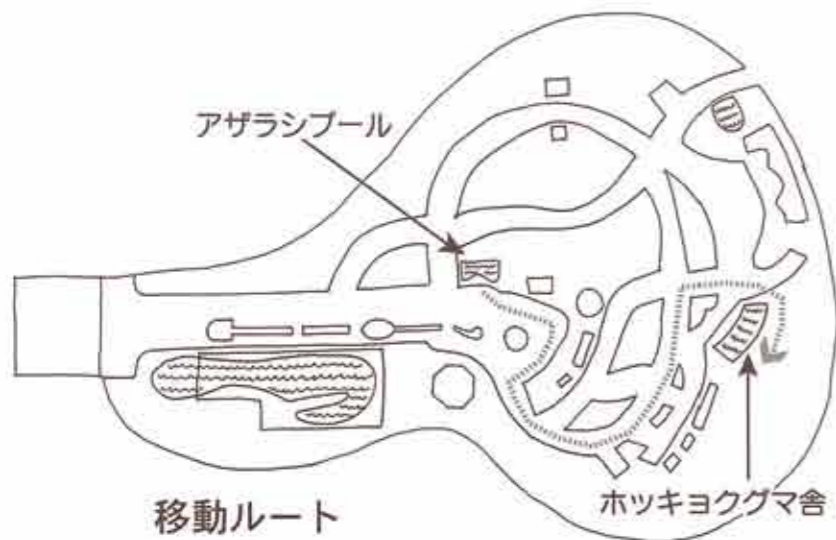


# ゴマちゃんのお引越し

「ほっきよくぐま館」建設のため、みなさんに親しまれてきたひょうたん型のアザラシプールを壊すことになりました。

「じゃあゴマちゃんたちは？」

ご安心を。ゴマちゃんたちは、あいているホッキョクグマ舎に大移動です。それでは「密着レポート ゴマちゃんのお引越し」ご覧下さい。



### 〈作戦〉

まず、アザラシを1頭ずつアミでくるんで、コンボでつり上げ、トラックの荷台へ。ホッキョクグマ舎まで車で運び、放飼場へすんなり移動。って口で言うのは簡単だけどなあ……。



アザラシ捕獲アミ「ゴマキャッチャー1号」(手作り)



様子を見に来た



運搬用トラック



不安そうなゴマたち



まずは板を壊ってとり囲む



そううまくはいかない



ようやくゴマキャッチャーの上へ



急いでつつみこみ



つり上げ!!



拡大写真



ホッキョクグマ舎に到着



最後の抵抗

こうして7頭のゴマちゃんは無事スムーズに??引っ越しできました。移動後数日間は落ちつかず、餌も食べてくれなくなりました。「けっこうデリケートな動物なんだ」と実感。今は新居にもすっかり慣れて元気に泳ぎ回っています。ちょっとせまいけど、あとは新しい「あざらしの海」ができるのを待つばかり。  
んっ?! てことはまた引っ越しかあ?!



現在のようす





# 飼育研究レポート

## チンパンジー日記 ミコとミラクル 第2章

ゆっくりとミコに近づき、そこで見た信じられない光景とは、冷たい床に放置され泣き叫ぶ赤ちゃん、それをジーツと見つめるだけのミコの姿でした。

赤ちゃんは「抱っこして」「おっぱいを飲ませて」と小さい体ながら、必死に泣声で訴えているのにミコにはいっこうに届かず、全く面倒を見る気がないのです。何とか抱かせようと、ミコに抱くジェスチャーを見せますが反応はありません。そして自分が移動するときだけ赤ちゃんの手を握り、まるで物を運ぶようにぶら下げて歩くのです。ミコのこれまでの資料を見ると、前にいた熊本では5度の出産をし、いずれも成功しています。熊本に問い合わせると「あぎん(あんなに)子育て上手な母親はいないよ。信じられんたい」との返事。こちらから言わせると「ミコが子育て上手だったなんて信じられない」といった感じです。実は全国の動物園でも、約半数のチンパンジーが、育児を放棄してしまっていることがわかっています。原因は、生活環境の変化や群れの状態、これまでの生い立ちなど、考え出すときりがありません。いずれにしても、精神的なものが深く関わっているようです。

次の日、冷たい床に置かれ、授乳もされていない赤ちゃんは、次第に衰弱していきました。「このままではもうだめだ」と思い、一度ミコを麻酔で眠らせて赤ちゃんを取り上げ、体を温めてミルクを与えることにしました。お腹がすいていたのでしょう、赤ちゃんはすごい勢いでミルクを飲み、みるみる回復していきました。人工哺育の技術は確立されています。ここで、このまま私たちの手で仔を育てればまちがいに生きてゆけるでしょう。しかし、将来、人工哺育児がオスなら交尾のできないチンパンジーに、メスなら子育てのできないチンパンジーになってしまう可能性が高く、また人に育てられたチンパンジーを群れに戻すのは、とても難しいことなのです。そしてミコは、もう二度と子育てのできないチンパンジーになってしまうかもしれません。ここはミコの母性本能を信じて赤ちゃんをかえすことにしました。

しかし次の日、望みもむなしに赤ちゃんは冷たくなっていました。そして次の年、ミコは3度目の出産をしましたが、今度は赤ちゃんに元気がなく翌日死んでしまいました。ミコは冷たくなった仔をいつも自分の横に置き、5日間も手放してはくれませんでした。んーいったい、どうすれば……。つづく

### <ミコとミラクル> 前回までのあらすじ

①1996年、熊本からメスのチンパンジー「ミコ」が入園。



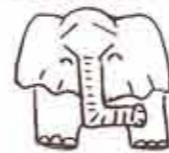
②人間にはなかなか心を開いてくれないが仲間たちとはすくうち解け、リーダーのキーボに気に入られる。



③1997年4月4日 キーボとミコの間で第1仔誕生。だが、この時ミコはひどい風邪をひいており、育児ができず仔は残念ながら死亡。



④1998年5月11日 キーボとミコの間で第2仔誕生。母子ともに元気。しかしそこには信じられない光景が……。



# 動物園事情



## 希少動物の細胞を保存する

野生動物の絶滅が心配されている今日、多くの人々が様々な方法で希少動物の保全に努力している。野生動物の保全を考える上で、もっとも大切なことは彼らの生息地をそのまま保全することであることは論を待たない。しかし、それが極めて難しいことはこれまでの歴史が証明している。

そこで、動物園での生息地外保全(ex situ Conservation)が重要性を増してきているのだが、希少動物として認識されている動物は、すでに増殖しない要因を内在させているようで、動物園に連れてきたからといってそう簡単に増えるというものではない。

動物園では、これまでに培ってきた自然繁殖の研究をさらに進め、飼育環境や群れ形態などを繁殖に適したものに変わって増殖に取り組んできた。しかしながら、それでも繁殖してくれない種がいた場合、座して自然繁殖を待つだけでは絶滅の危機に対応できない。そこで、畜産界では通常技術とされている、人工授精や受精卵移植の技術を野生動物へ応用する研究がなされているが、取り組みは始まったばかりで、解決しなければならないことも多く、野生動物にとっては新技術である。

それでも、人間や家畜で蓄積された成果が野生動物に生かされる日はそう遠くはないと信じていたい。しかしながら、待っている間に、絶滅の渦巻きはどんどん加速するであろう。そこで、万が一の事態に備えて、動物本体ではなく細胞レベルでの保存が行われている。いわゆる冷凍動物園である。現在、日本の動物園でも希少動物の配偶子の保存が有志動物園の間で努力されている。この事業は動物園だけではとうてい完結することができず、大学や研究機関が協力して進めなければならない。

ところが、地球規模で保存していかなければならない貴重な野生動物を扱っている動物園に、この事業の重要性がまだまだ切迫したものとなっていない。その証拠に、相変わらず所有権の問題を持ち出す園館が、未だに少なくない。「細胞の所有権をどうするか」、「うちの精子を使って生まれた子の帰属はどこか」、「この細胞を使用して達成した知的所有権は誰のものか」などなど真剣に申し立てる人もいる。「野生動物は地球のもので、動物園はそれを預かっているにすぎない」という基本的理念が欠落していると思われ、これは動物園自身の問題であると思われるかもしれないが、決してそうではない。それぞれの動物園に、このような活動を求めていくのは、動物園を利用する皆さんの意識だと思う。動物園は、多くの皆さんとともに発展していくものだからだ。



## 動物病院VETニュース -カリスマ獣医師への道-



今回は、動物園獣医師の別の顔を紹介します。

近年、動物園のあるべき将来像が見直されつつある中、その使命の一つとして動物を「展示する」あるいは「伝える」ことが重要視されています。動物の持つ能力や性質をできるだけ魅力的に見せて、入園者を魅せようというわけです。動物園で動物を見て楽しむレクリエーションの役割は、なんかギスギスした現代の世の中にあって、心の癒しとして大切です。そしてさらに、入園者に動物のことを一つでも多く「伝えて」、その魅力を知ってもらうことが今の動物園に求められているわけです。そのため、飼育展示係職員はさまざまな工夫を凝らし、動物の能力を最大限に引き出して魅せようと日々努力しております。動物園獣医師もその1人で、今までにあまりなかった「動物園獣医学の展示」を試み始めています。

例えば、入園者に動物園獣医師について率直に伝えるため、毎日実際に行っている仕事やこれからの使命などを解説した看板を設置したり、ライオンやクマなどを麻酔するときに使用する吹き矢を展示しています。「へー、こんなことやってるんだ?」と感じながら、目を通してもらえればうれしいですね。また、ダニが起す皮膚病にかかって保護されたエゾタヌキのポンチュウくん(注)の闘病記を例として、野生動物保護活動について知ってもらう看板を設置しています。この病気はカイセン症といい、ペットから野生動物にうつるといわれています。そうです、無責任な飼い主が捨てたペットが野生動物の脅威となっているのです。知ってみると、切なくなりませんか?

最近、野生動物に関わる仕事をやりたいという学生が増えています。昨年、日本大学で行われた野生動物医学学会に参加して、野生動物に関わりたいたいと志す高校生、大学生、獣医学生向けに、動物園獣医師の活動や動物園の使命について講演を行ってきました。ここでは、学生たちの熱い情熱を実現してもらえるように情報を提供し、動物園の活動への理解と協力を呼びかけました。みんなすがすがしい顔つきでしたよ。エネルギーをもらいました。

動物園獣医師の仕事として、動物の健康管理が最も重要であることは言うまでもありませんが、こんな一面もあったのです。このことを、伝えることができたでしょうか?

動物園は、子どもの頃からずっと生涯にわたって誰もが楽しめ、動物や自然環境などについて学ぶ教育の場でもあるのです。動物の魅力を知った人がどんどん増えれば、自然界の彼らを大切に见守っていききたいという声も大きくなっていくはずでしょう。次の動物園訪問の時は、何を発見して家に持ち帰れるでしょう?



エゾタヌキ



# 氷彫刻 コンクール

2002年2月7日～11日第43回旭川冬まつりが開催され、今年旭山動物園内にも会場が設けられ、市民のみなさんによる氷彫刻コンクールが行われました。どれも名作ぞろいでしたよ。



## 飼育動物数

(平成14年2月28日現在)

|     |      |      |
|-----|------|------|
| ほ乳類 | 49種  | 210点 |
| 鳥類  | 92種  | 522点 |
| 爬虫類 | 11種  | 36点  |
| 合計  | 152種 | 768点 |

## 編集後記

今年は雪解けも早く、過ごしやす  
い冬でした。でも土曜日は天気が  
悪くて、冬の動物園の入園者数はあ  
まり伸びませんでした。ちょっと残  
念です。今年は9月にほつきよく  
ま館がオープンします。そしてあざ  
らし館の設計です。来年の建築予定  
です。旭川市も財政難ですがどうに

かあざらし館は建てさせてもらいた  
いなーと願っています。通年利用の  
レストランも併設できればいいなど  
考えています。こんなのありという  
アイデアがあって、自分でも楽しみ  
です。去年はオランウータン舎が大  
人気でしたが、冬の間にチンパンジ  
ー舎とサル舎の放飼場も改築しまし  
た。広く見やすくなったのでお見逃  
し無いように！ 元



それ以上近づくと  
けがあるぞ!!

モユク・カムイ No.63 平成14年3月25日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104

発行 小菅正夫 <http://www.arc-net.co.jp/shoukou/zoo/>

編集委員 中田真一・坂東 元

印刷 谷川印刷株式会社 〒070-0831 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653